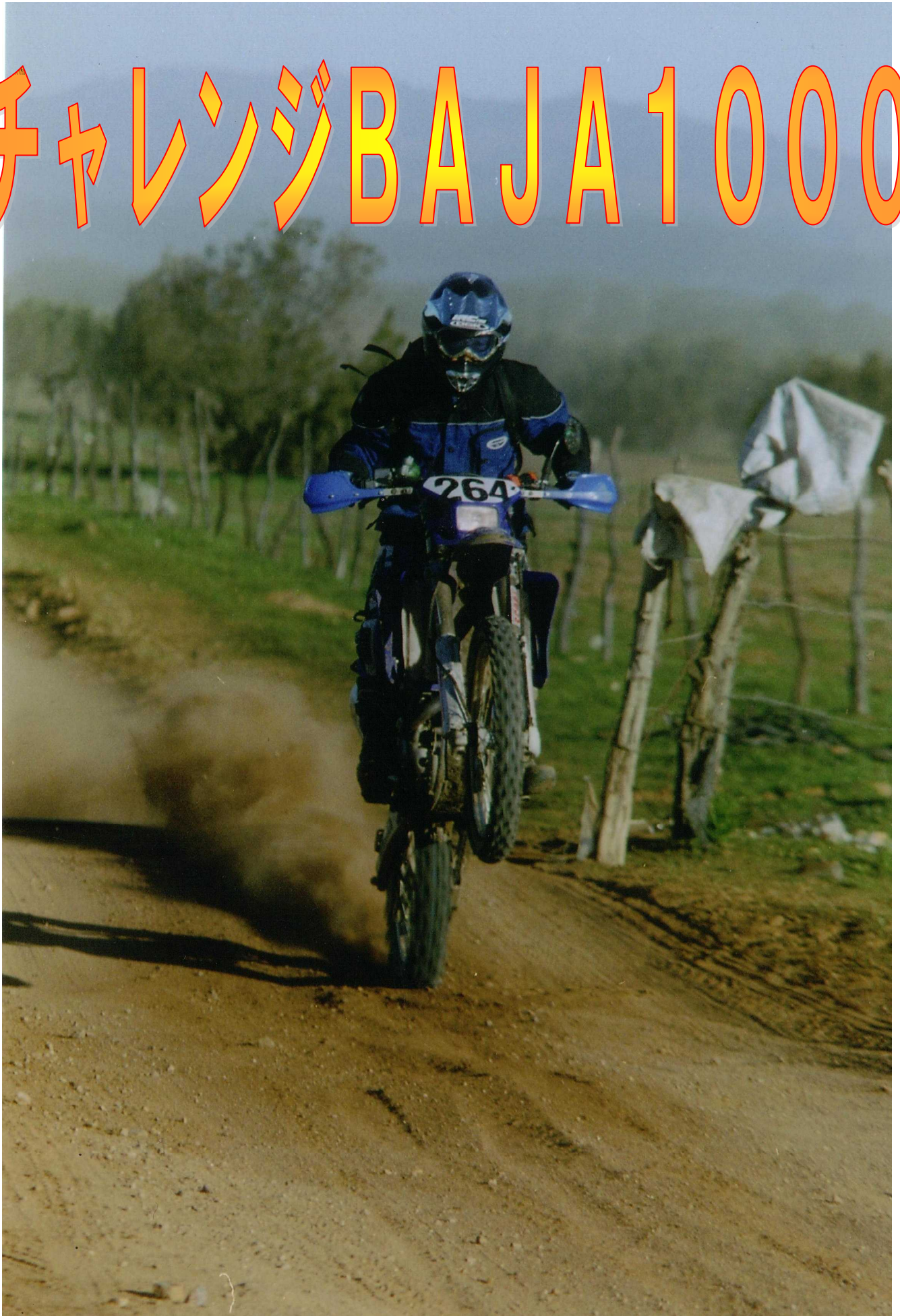


チャレンジBAJA1000



心でっかちへの旅。

B A J Aの参戦期をお伝えします。果たしてどんなレースなのか？みんなとこの気持ちを分かち合いたいです。自分たちのバイクがなかなか受け取れず、レース中は何度ものトラブルに会い、今回ほど大変なレース体験はありませんでした。その分たくさんの方の親切に、たくさん助けられゴールすることが出来ました。本当に本当に素晴らしい体験となりました。多分バイクの神様が「これでもお前はバイクが好きなのか？」と試していたのかもしれませんが。迷わずにスティーブは答えます。

「大好きです！」

話し出すと本当に長いのでレースまでのことは省きました。この気持ちを是非皆さんとシェアしたいのです。ではでは、お楽しみください。

さてさて完走しました！しか言っていないませんが、果たしてどんなレースだったのか？をお話いたします。まず皆さんも知ってる通り、参戦用のバイク受け取りがぎりぎりになってしまいました。その付けがレース本番にやってきます。朝7時ごろエンセナダをスタート。



はじめは様子を見ながらウォーミングアップもかねて慎重に走っていました。とその時まだ1マイル走ったぐらいのところでオンボードカメラの台がぽろっと折れてしまいました。はいー撮影終了！はっえ～！そのままハンドルに付けてあったバッグにカメラをしまいその後約300マイルも役に立たない荷物を積んで走ることになりました。そして聞いてはいましたが何個も何個もメキシコの観客が作ったトラップ（罠）が作ってあります。まったくも～。このくらいじゃ転ばないっしょ。などと甘く見ていたときです。作ってある小さなジャンプをぴよんと軽く飛ぶと何と！着地点にもう一つジャンプがあるじゃないですか！！！！もっと思いっきり飛んでおけば！！！！と思った時は遅くりヤタイヤがモロに引っかかり前転しちゃいました。

くっそー！と思いながらもスマイルを忘れず直ぐにエンジンをかけて再スタートしました。その後順調に高速の砂地セクションを気持ちよく飛ばしていきます。そして小砂利混じりのフラットダートをひたすら全開と行きたいところですがエンジン逝っちゃいそうなので気持ちスロットルを緩め走り続けます。



海岸線の緑色の海のステキな景色を見ながらの高速走行を抜け多少アップダウンを繰り返し湿地帯へ小さな流れと一緒に谷間を抜けてサボテンの生えたアップヒルをどんどん上っていくと車がたくさん集まったところが見えました。しかしサポート隊の山田てんちよ、坂下君、近藤君(ふじや靴店さんの息子さん)の仲間は一人もいなかったのもまだ待ち合わせ場所じゃないな。と思いそのまま先へ走り出しました。



そうです。ここがサポート隊と待ち合わせをしていた夜用のヘッドライトを付ける場所だったのです！まったくの初出場。見る場所、見る場所知らないところばかり。しかも携帯なんてつながらないし、今から思えばサポート隊が先についていない限りわかりっこないのです！世の中こういうときに限って悪いことがおきます。なんと新製品のタイヤボールと言う沢山のボール状の物をチューブの代わりに入れてあるので、パンクはまずしないし、しても入れるのがとっても大変なので直せないや。と思い交換するチューブさえもっていませんでした。あるはずがないと思っていたことが起きたのです！リヤタイヤがパンクしました！しかし仲間のところへ行けばスペアホイールがあるし何とかそこまでもってくれ！と思いそのまま走り続けました。もう

通り越していることも知らずに！とうとうビード（タイヤのふち）がリム（タイヤのはまっているふち）から落ちてタイヤとホイールが空回りを始めました。しかし何とか走るもんです。その時です。後ろから物凄い勢いでレーストラックが走ってきます。やばいもう追いついてきたんだ！しかし道幅いっぱい走ってくるのでどこに避けて良いかわかりません。



焦ってそのまま道の外へ飛び出すとそこは道から1mぐらい低いしかも石がごろごろしてる場所でした。タイヤは空回りなのにこんなトコから這い出さなきゃいけないのか！アクセルを思いっきり開けてみるとなんと難なく脱出できるじゃないですか！やるなWR！などと感心しているとしばらくしてまたレーストラックがやってきました。今度は開き直って片手を挙げながら避けられる場所まで走

って行き道を開けました。何度かそんなことを繰り返し深い砂地の道に出て来た時でしたリヤタイヤがロックしてバイクが止まってしまいました。見るとタイヤの中の針金飛び出してスポロケット部分に絡み付き車輪が回らなくなっています。何とかしないと。とリュックから工具を出して針金を切り始めると近くに人が来てくれて直ぐにレーストラックが来るからコース脇に退かそうと一緒にバイクを引っ張ってくれました。どうしようか？と考えていた時に以前人から聞いたある話を思い出したのです。砂漠の中でタイヤ無しのリムだけでも結構走ったという話しです。ああ僕がそれをここでやる事になるとは・・・迷わずタイヤを外し針金をニッパーで切りタイヤ無しの車輪をはめて、さあ・・・。アクセルを開けてもさっぱり空回り、そのままふかしていくと何とか進み始めました。本当に何とかです。しかしラッキーだったのが砂地だったということ、そしてもう一つ舗装道路まで3kmぐらいの所だったことです。本当に本当に大変でしたが何とか舗装道路まで出てくると、そこはレーストラックのサポートの車がたくさん。そ

ここで初めて自分が待ち合わせ場所を通り過ぎていることを知ったのです。そしてさらにラッキーだったのがここから待ち合わせの場所だったところまで舗装道路で30分ぐらいでいけるということでした。無線を持っている人に頼み、はじめはここまで自分のサポート隊を呼んでもらおうとしたのですが、無線が込んでいて連絡が取れないとのことでした。そうこうしているとピックアップにバイクを積んだ人が声をかけてくれました。事情を話すと、なんと自分たちはトラブルでリタイヤしたから自分たちのバイクにはまっているタイヤを外して僕のバイクに付けてくれると言うのです。せめてお金を払うと申し出ると、困っている時はお互い様だ。俺のタイヤでよければ遠慮なく使ってくれ。何とステキな人なんでしょう。涙が出るくらいうれしい申し出に素直に喜びタイヤと一緒に入れ替え名前と住所だけは教えてもらい、お礼を言ってサポート隊との待ち合わせ場所まで舗装道路を自分で戻ることになりました。



舗装道を30分ぐらい戻り約束の場所へ着くともうみんなは到着していました。直ぐにみんなに会うことができました。本当にうれしかったなー。急いでライトを取り付けてガタガタになったリヤキャリアも外し、カメラの入ったハンドルのバッグも取り外して、出発する時にはもうすっかり暗くなっていました。そしてまた舗装道路で元の場所まで戻ろうと思っていましたが何と！それをやってしまうとショートカットして来たと勘違いされるからもう一度コースを戻ったほうが良いと教えてもらい、またまた一度走ったところをもう一度走ってレースに復帰しました。一度走っているのに夜はまったく別のところを走っているようでした。何度もコケてひざを痛めましたが、リムだけの時とは違いあっという間に舗装道路まで出てきたのです！その途端次のあり得ない事が起

きたのです。何と！！！！ライトが消えました。・・・



最初何が起きたのかわからず、パニック状態です。ライトが消えたと分かるまでに15秒ぐらいかかったのでしょうか？レース前に考えていたリタイヤする条件の一つにライトにトラブルが起きたらやめる。というのがありました。どうしようかと考えていた時にまたまたある方から聞いた話を思い出したのです。その方はバイクツアーの仕事をしているのですが、以前B A J Aのツーリングへ行った時。一人の人が迷ってしまい夜通し探した。そしてライトも付いていないバイクだったけどけっこう走れたんだよ。・・・これだ！ちょうどリュックにはペンシルライトが入っていたのでライトのステーにタイラップでくくりつけ点灯させて走ってみるほんのりですが何とか道らしき

ものが見えるじゃないですか！走れるかもしれない。というかここで止まってもどうしようもないし少しずつでも良いから前へ進もうと思いました。ところでなんでライトが消えたかということ物凄く明るいライトなのでバイクが充電する量が電気の消費量より少ないのでバッテリーが空になってしまうのです。そういえばライトのメーカーの説明書にセル付きバイクは大丈夫だと思えますがお勧めは発電量の大きいステーターに交換をしたほうが安心です。みたいな事書いてあったよなー。『後悔先に立たず』走り出す頃には目も慣れてきてなんかうれしくなってきました。そして僕のお願ひしているピットサービスM A G 7のP I Tへ到着どうしたライトが点かないのか？とみんな心配してくれているのがとても嬉しくなりました。大丈夫です。と言って出発したのは良いけどそんな事言っていられたのも舗装道路までの話でした。コースはまたまたダートに変わりガレ場が変わってしまいました。小湊(ガレ場の有名なオフロードエリア)を走ったことのある人は想像してください。夜ペンライトだけで小湊を走っているかんじで

す。何回も何回もこけました。もちろんそんな場所ではスピードも出ているはずはないのでたいした転倒ではありませんけど。しかしバッテリーは少し走ると少しは電気が溜まります。スイッチを入れると少しの間はライトが使えます。そうか！やばいトコはつけるようにしよう。そして低いギヤでエンジンの回転数をなるべく上げて充電量を増やすように走りました。しばらく行くとコース脇で焚き火をしながら観戦している人達が見えてきました。



バイクを止めて 申し訳ないけどライトがつかないので何か売ってもらえるライトはありますか？と聞いてみました。するとなんともうれしい事にお金なんか要らないから付けてあげるよ。と同じようにライトのステーに懐中電気をくくりつけてくれました。ステキすぎま

す！何度もお礼を言って走り出すと、今度はホンダのピットがありました。ヤマハだけどこちよ聞いてみようと同じように言うとまたまた同じようにライトをくくりつけてくれました。今度はホンダで出るよ！とジョークも飛び出し。またまたお礼を何度も言ってまた走っていきました。本当にステキな人たちばかりなんだな！感動です。そんなことを繰り返してライトステーにはもう4個もライトがついています。みんなからの本当に嬉しいプレゼントです。そして次のMAG7のピットに到着。そこはおじいちゃん3人でやっているPITでした。そもそもMAG7などのPITサービスは多少のお金はもらえるのかもしれませんがボランティアみたいな人達がそういうことをするのが楽しくてやっているのです。だから本当に楽しい人、良い人達ばかりです。このおじいちゃん達も本当に本当に良い人たちでライトの話をするところで朝まで待ったほうが良い。と言ってくれました。しかしこのとき午前1時。日が昇ってくるのが6時頃との事。あと5時間か～。少しづつ進もう。先へ進むことを告げると何でライトがつかないの？と言うことにバッテ

リーが上がっています。ちょっと待て、たしか充電器があると思ったよ。自分の車に戻りしばらくすると年代物の充電器を持ってにっこりあったよ（居たよ）。君が来るのを何年も待っていたんだ。そして発電機に充電器をつないで僕のバイクのバッテリーにつないで充電をしてくれたのです。待っている間に4人で焚き火を囲みスティーブ・マッククインの話、おじいさん達が以前に出ていたレースの話や聞いた話、星空を見ながら星座の話。僕もライト無しで走ってきたお陰できれいな星を観ながら走って来れました。というと爆笑してくれました。そして走っている時に流れ星も何度も見えました。そのたびにライトがつくようお願いしようと思っていたのですが一度もお願いできなかったと言うと次は必ずお願いしろよ。とまた爆笑です。

1時間ぐらい充電してもらい3人の連絡先を聞いて出発です。あと30マイルでまた1号線（舗装道路）へ出るからグッド・ラックだスティーブ。



何と本当に本当にラッキーだったのです。この1号線へ出た瞬間にライトがまた消えたのです。すっげーついでに消えてるじゃん。ライトは消えてるけど。なんて思いながら走っていました。しかしこの時何とミスコースをしていることにまったく気付かずにひたすら1号線を南下していたのです。・・・しばらく走るとついにテールライトも消え何とペンライトもバッテリー切れ全てのライトが消えました。この1号線はレースだからといっても一般の車はバンバン走っています。中でも怖いのが大きなコンボイです。いくらなんでもこのまま走るのはやばいと思い、バイクを路肩へ止めたのです。

バイクを路肩に止めると後ろから来たバンが止まってくれました。どうしたのトラブルかい。僕たちはもうリタイヤしたからラパスへ向かっているんだ。君もラパスへ行くなら乗せ

ていくよ。と。いえいえ僕はまだレース中です。ライトが全部つかないので危なくて止まっていた。と言うと。君コース間違えてるよ。コースはあっちだよ。と来た方向を指差しています。その時初めてミスコースをしたことに気が付きました。とにかく寒いから何か飲め。とコーヒーを入れてくれて、ついでにサンドイッチも作ってくれました。夢中で走っていましたが外は物凄く寒くなっていて凍えるほどです。体がぶるぶると震えてきました。もう一度聞くけどまだレースを続けるのか？俺たちはラパスへ行くから戻ってやれないけど良いんだな？と。僕は変わらずレースコースへ戻ります。と言うと。この後どうするんだ。と。危ないから明るくなってくるまでここで待ちます。と言うと。もう一人の人が戻ってやれよ。と言ってくれたみたいです。このもう一人の人はスペイン語しか話していないので僕には何を言っているかはわかりませんでした。が多分そうです。この後直ぐに、コースのトコまで戻ってやるから車の後を付いて来るんだぞ。と言ってくれたのです。ありがとうおじさん。本当になんてステキな人たちばかりなんだろう。あの・・・

戻るんだったらガソリンも分けてもらっていいですか？と、失礼ですがお願いするとタンクに満タンにガソリンを入れてくれました。



ムチャス・グラッシアス（どうもありがとう）を連発で言う事しか出来ず、バイクのエンジンをかけて、あっ。ライトがつかなくなってからはもちろんキックスタートですよ。行こうとするとさっきのおじさんが降りてきて寒いからかぶれとニットのマスクを手渡してくれました。ムチャス・グラッシアス車の後について1号線に戻ることに20分。コースへの分岐点に到着。ココだったのか。めっちゃめっちゃわかりやすいじゃん。でも見落としていたんですね。おじさん達にもう一度お礼を言ってコースへ戻ると直ぐにチェックポイントこの時点で4時過ぎでした。その先どんなトコかも分からないのでココで一度止まって朝を待とうと、少し休ま

せてください。とお願ひしました。するとチェックポイントのおじさんが近くのBAJAPITの人に声をかけてくれ、近くのバンの後ろの荷物をかたしてくれたのです。ココで明るくなるまで寝ていなさい。と言ってくれたのです。またまた感動。ありがとう。と横になると即効で熟睡していました。

体をゆすられあわてて起きると外はうっすらと明るくなっています。体は嘘のように軽く痛いところもなく頭もすっきりとしています。それにしてもココまでろくに食べ物も食べず、栄養ドリンクみたいのと水だけしかとっていなくて平気なんだな〜と、ちょっとビックリしました。おしっこは時々しましたが。大きいほうは一度も行っていない。せっかくモンベルの自然分解するトイレトペーパーを持ってきたのに・・・まあそれはどうでもいいのですが。BAJAPITの方たちにお礼を言って出発しました。さあ新しい日です。とっても清々しい気分です。その時目の前に素晴らしい光景が飛び込んできました。

砂漠の中にまっすぐにどこまでも伸びるダートロード、遠くには台形の山がそびえたっています。朝やけの中のその景色

ととっても新鮮なちょっぴりヒヤッとした朝の空気まさにあの映画『ダスト・グローリー』の公式サイトの写真そのもののようです。



その中を走っていると本当に本当に今この瞬間、この場所を走れている事が奇跡のようでした。昨日のたくさんの方から貰ったたくさんの親切、ココまで来るのにお世話になった人達、応援してくれている人達、そしてやはり家族のこと、これまで自分がやってきたいろんな経験全てが今の為にあったんだな〜！何一つ無駄にはなっていないな〜！と。恥ずかしながらこの歳になって感動と感謝で涙があふれて止まりません。朝まで待って本当に本当に本当に良かった。こんなステキな景色を見ることが出来たんですもん。俺はなんて幸せ者なんだ！砂漠の中心で愛を叫びました。うふ。しばらく気持ちよ

く全開コースを飛ばして走ると砂地のコースへそして海岸線へ出て砂浜をこれまた快調に飛ばしていきます。今日は何か吹っ切れた感じで余裕も出てきて途中の観客には全て手を振り走ります。つぎのMAG 7では初の食事サンドイッチとフルーツ（オレンジ、キューイ、バナナ）を食べ出発しようとするゴグルしてないのか？と聞かれました。あっ、そういえばいつの間にか、して無いじゃん。よく考えてみると夜の間に何度も転んでいるのでその時にどこかで落としてしまったようです。そのおじさんは一緒に来ていた息子さんに言ってゴグルを車からもって来て僕に手渡してくれました。ムチャス・グラシアス後でココに送り返してくれればいいよ。とバイクのリヤフェンダーにお店のステッカーを貼ってくれました。スポンサーじゃないと僕のバイクにはステッカーは貼れませんが特別OKです。ゴグルは新品を返しますよ。と言って先へ進みました。本当に走っているだけで楽しくって楽しくって仕方がありません。バイクに乗り始めたころのあの感覚分かりますよね。ただ走っているだけで、ワクワク、ウキウキしちゃう。いつまでも走っ

ていたいそんな感じ。だけど直ぐにそんな事をいえないコースへ変わっていきました。



路面は白い砂地見渡す限りサボテンの中的一本道永遠と伸びるウォッシュボード状の道です。本当に嫌になるぐらい走ってやっと頂上まで来ると同じくらい永遠と先まで道が続いています。ほんとにもう勘弁してくれよと思いながらやっとならぬと右にカーブカーブの向こうにはおいおいまたまた永遠と続くウォッシュボードこんなことを何度か繰り返して30マイルほど走りMAG 7へ着き、ちょっとブレイク。毎回どうだい？と聞かれるんですがこの時ばかりは、もうウンザリです。ところで次の60マイルはどうでしょうか？とたずねました。次の60マイルは素晴らしいトレイルだよ。どんなところなんでしょう。ともう一度たずねると今走って来たじゃない

か。同じようなところさ。君のリュックに水のボトルを2本入れておくからね。エー！マジで！that is super!とユニバーサルスタジオで覚えたギャグを返し、泣く泣く走り出しました。本当に同じホワイト・サンディー・ウェイビー・ロード（スティープ命名）ひたすら走りました。



60マイルもウォッシュボードを。凄いですよ！こんなにウォッシュボードを走ると何と足の裏が熱くて熱くて火傷しているみたいなんです！ヒリヒリするんです！その後コースはガレ場に突入。しかしそんなにひどくは無いので結構飛ばして走れます。さっきと違ってスピードが出るので涼しいです。しかしこの後体に異変が起きてきます。あのホワイト・サンディー・ウェイビー・ロードの疲れがココへ着て出てきました。ココは正直キツカッタデス！リ

ヤキャリヤを外したのでその分リュックがかなり重くなっていたので肩から背中、腰がこってきてバキバキ状態。思っているように走れなく何度か突っ込んでしまいます。これはヤバいな！と思いスピードを緩めます。でもなぜかコケます。ビックリです。体が言うことを利かないというのはこういう事なんですね。しばらく走るとこっているところが急にピーンと張ってきて切れそうな感覚です。その瞬間ブッチーンと切れました。何が？分かりません。何かが。しかしその切れた感覚の後コリが全て直っていました。体が元に戻ったのです！すっげー体の自然治癒力なのか？それとも・・・とにかくやったー！やったー！なのです。路面はサンドに変わり所々シルトという深いパウダー上の場所が現れます。はじめあまりにパワーを食われエンジンの回転数が落ちるのでエンジントラブルかと思うほどでした。しかも見た目は結構硬そうな路面に見えるのでシルトに入ってからじゃないと見分けがつかないのです。ある時急に目の前を走っていたバギーがシルトに埋まってスタックしました。あわててバイクの向きを変えコースを横切りシルトか

ら逃れました。あのバギーがいなかったらと思うとゾッとします。コースは再び海岸線へ。



夕日がちょうど落ちる頃でした。あと60マイル2回目の夜が来ました。今度は日中ずっと充電されていたし、スタートもずっとキックだったのでバッチリでしょう！？でもなるべく暗くなるまでがまんがまん。路面は以前ガレ場です。しかないライトをつけて走行です。もう少しがんばってくれ！あと少しで完走できる。と、その時ですエンジンが止まりました。！！あわててライトのスイッチを切ってバッテリーあがりを防ぎます。が、今回は事前に教えてもらっていた通りシルトが続いたのできっとクリーナーが詰まったんだな！とわかりました。とりあえず真っ暗なのでLEDライトの明かりでクリーナーのふたを開けてみるとビックリ！シルトの砂を思

いっきりくつつけて空気を吸えるわけないでしょ！という勢いです。そしてちゃんとリュックに忍ばせておいたスペアのフィルターフォームへ変更。ふたを閉めてキック3発目で見事エンジン再スタート！うっふー！うれしー！そのまま快調に走ります。とりあえずライトも付いてるし、良いね～！でもライトが何時消えるかわからないのでとにかく消える前に行けるところまで行っておこう。ちょっと飛ばします。その直後再びエンスト！えっ！えっ！あっ、そうかガス欠だ！予備タンクにしてまたまた走り出します。そうなのです、事前にMAG7の最後のピットは残り20マイルの場所なので申し込んでいなかったのです。しかし誰かは申し込んでるんじゃないかな？と思っていましたが甘かった。多分申し込んだ最後の選手はもう来てしまったのでしょうか。どこにもMAG7はありません。もう撤収してしまっていたのです。BAJA PITもありません。HONDA PITもありません。こんな近くだからこそないのですがっ！しばらく走ると最終チェックポイント13に到着。

ココでお願いするしかない。ガ

ソリンを分けてもらえないでしょうか？あとちょっとしかありません。すると、あと17マイルだぞ。もたないのか？と聞かれました。ガスタンクのキャップを外し中を見てもらおうと・・・もたないね。



でもあいにくガソリンがないんだ。あっ、ちょっと待って。と言って使っていた発電機のタンクからガソリンを抜いてポリタンクへそして僕のバイクへ移してくれました。さあ、これでフィニッシュできるぞ。僕は申し訳なく腕に巻いていたフラッシュ付きのアームバンドを娘さんにあげました。すると奥に座っていたおばあちゃんが寄ってきてもらってはいけないよ。その人に返しなさい。と僕の腕にまたアームバンドを付けてくれました。これはあなたに必要なものよ。そんな事しなくてもいいの。私はあなたがメキシコに来てくれただけでうれしい。よう

こそメキシコへ。胸にしました。あと17マイル。そしてみんなからの声援 行けー！！！！本当に涙があふれる温かい言葉についてアクセルを思いっきり開けてウィリーで答えます。その後どんどんとガレ場を登っていき遠くに街の明かりが見えてきました。ああ、あれがラ・パスの明かりなのか。あと少しだ。ライト、消えないでくれ。本当にあと少しだぞ。今度はどんどんと下って行きます。もしかして、もしかして・・・アスファルトに出ました。道路わきの人達が手を振ります。僕も手を振ります。大きなアーチが見えてきました。やったー！ゴールだ！！！！ゴールには凄い人ばかりです。35時間で見事？ステイブ、ゴーーーーール！係りの人がバイクと腕に巻いた選手を証明するリストバンドをチェック。そしてゴールするともらえるフィニッシャーズ・バッジを見せてくれました。もらおうとすると、ちょっと待って。と言ってジャケットのポケットへ入れようとしてくれます。そんな間も観客のみんなは僕の身に着けているものをどんどんと引っ張って取って行こうとするんです。もうバイクが倒れてしまうほどの勢いでグローブを引っ張ります。絶対取らせ

ない！僕もがんばります。そしてバッジをポケヘしまってくれました。急いでその場から逃げ、少し離れた人のいない路肩へバイクを止めて周りを見渡しますが、誰一人知り合いが居ません。それどころか日本人らしき人さえ誰も居ないのです。あわててリュックから携帯を出して電源を入れました。アンテナが立っています。すぐにサポーターのドク坂下へ電話。繋がりません。そして緊急連絡先の日本へ電話。いまゴールしたよ。おめでとう。良かったね。



でも・・・このとき初めてチームメイトが足の骨を折ってリタイヤし、うちのサポーターはまだラパスに着いていないとわかりました。するとまたまた人だかりが出来ました。今度はサイン攻めです。来る人、来る人にサインを求められます。すっげー！うれしー！なんと若い子の中には胸にサインを求めて来る人もいました！ホント、メキシコ最高！B A J A最高！ムチャス・グラッシアス！その後、

知人の雑誌の方にホテルを探してもらい、送ってもらい、お金を持っていないのでホテル代と、食事代を立替えてもらいました。幸せ。



ホテルの部屋から奥さんへ電話をしました。お世話になった事、親切にしてもらった話しをしていると、つい胸が熱くなって言葉が詰まってしまいます。電話の向こうで、奥さんも泣いています。本当に本当にBAJA 1000に出て良かった。こんなに、こんなにステキな思い出が出来ました。きっと死ぬ時にも思い出すでしょう。そんなすっげー経験でした。ちなみにサポート隊がホテルに到着したのは夜中の1時過ぎでした。熟睡。

